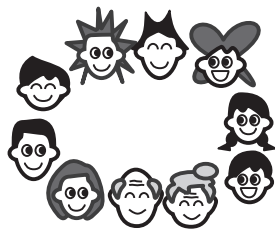


津谷歯科医院 口腔ケア新聞

NPO法人
訪問歯科診療
を広める会
賛助会員

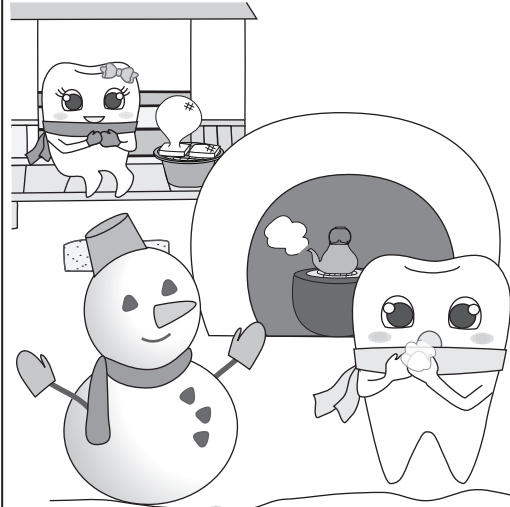


平成30年2月号
発行人 津谷歯科医院
院長 津谷良
住所 岡山市中区海吉1807-14
紙面に関するお問い合わせは下記まで
電話：0120-779-418
配信代行：訪問歯科診療を広める会

皆さん、こんにちは！いかがお過ごしですか？

津谷歯科医院、院長の津谷良です。

国立感染症研究所のホームページには、インフルエンザの流行レベルマップが公開されています。これによると、今年は過去5年間の平均よりも高い値で推移しているため、1~3月のピークを前に特に注意が必要です。感染予防としてはマスクの着用、手洗い、うがい等が効果的ですが、実はインフルエンザウィルスの感染と増殖は、口腔内の歯周病菌が深く関与しています。実際に、口腔ケアで歯周病菌を減らすことで、インフルエンザの発症を1/10に抑制したという結果があり、現在、大規模な疫学調査が行われています。重症化しやすい要介護の方については、できれば口腔ケアでさらなる感染対策をしていただくことをおすすめします。今月は、『歯周病①』についてご紹介したいと思います。



歯を失う原因の1位が歯周病

歯周病は自覚症状がないこともあり、なんと人類史上最も感染者数の多い感染症としてギネスに認定されています。平成26年の『患者調査』によると、20歳代で約7割、30~50歳代は約8割、60歳代は約9割も罹患していることがわかっています。歯を失う原因は、むし歯が約3割、歯周病によるものが約4割です。歯周病の発生は、歯周病菌が直接的な原因ですが、環境や遺伝的なことも重なり重症化することがわかっています。

歯周病の原因菌は・・・

私たちの口腔内には400種以上もの細菌が生息していますが、歯周病の原因菌は5~6種類です。中でも病状を重症化させるのは次の3種類です。

- ①ジンジバリス(P.g菌)・・・歯と歯ぐきの間隙である歯周ポケットの中から高頻度に検出されます。付着力がとても強くバイオフィームという強固な膜を形成するため、歯ブラシで除去できません。また、毒素によって骨を溶かし、悪臭の原因物質(硫黄化合物)も産生して強い口臭を放ちます。
- ②アンティコラ(T.d菌)・・・人の免疫機能を強く抑制するので歯周ポケット内の細菌の増殖を促すことが知られています。重度の歯周病に見られる細菌です。
- ③フォーサイセンシス(T.f菌)・・・ジンジバリス菌と共存することで病原性を発揮します。歯周ポケットの深部ほど検出率が高くなります。若い方の歯周病や急速に進行するタイプの歯周病で多く見られます。

次月は『歯周病②』をお届けします。

<歯周病の発生機序>

1. 口腔内環境因子
プラーク、歯周病菌量
歯並び、噛み合わせ等

時間の経過とともに
歯周病が進行



そして最後には
歯が喪失

2. 生活習慣因子
歯磨き習慣、喫煙
ストレス
不規則な生活等

3. 病因・その他の要因
老化や遺伝、糖尿病
肥満、骨粗しょう症等

◆ 25歳以上の歯周病罹患率は80%以上 歯を失う原因の第一位は歯周病によるものです ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって



ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお問い合わせやご依頼を受けるケースがとて増えしてきました。小さなご病気されてしまったことがキッカケで、寝たきりになってしまわれたりして、『いつもお元気でいいですね』って話をしていたのに・・・そんなことが続いたので、これは本格的に訪問診療に取り組まなければいけないかなって、強く思うようになりました。

そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けしようと考え、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

津谷歯科医院

診療時間 9:00~12:30/14:00~18:30
(土曜日は16:30まで)
診療科目 歯科 小児歯科
休診日 木曜・日曜・祝祭日
院長 津谷良
岡山市中区海吉1807-14